

名 誉 会 員 の 紹 介

(平成13年5月18日第43回通常総会において推挙)



戸 田 巍 君

と だ いわお

(昭和9年2月1日生)

昭和33年 3月	東京大学工学部大学院修士課程修了
昭和33年 4月	日本電信電話公社電気通信研究所入社
昭和60年 9月	日本電信電話株式会社理事情報通信処理研究所長
昭和63年 6月	同社常務取締役研究開発技術本部長
平成 4年 6月	富士通株式会社常務取締役
平成 6年 6月	同社ネットワーク開発本部長兼務
平成 9年 6月	株式会社富士通研究所フェロー

本会関係歴

- (1) 昭和56年2月入会（会員番号196007959）
- (2) 分散システム研究会主査（昭和56～58年度）
- (3) 理事（昭和56～57年度）
- (4) 副会長（平成元年～2年度）
- (5) 会長（平成9～10年度）
- (6) 平成11年度功績賞

平 成 12 年 度 功 績 賞

(会員番号順)



稻 垣 康 善 君

いな がき やす よし

(昭和14年8月19日生)

稻垣康善君は、永年にわたって情報処理の基礎理論分野の研究に携わり、数々の優れた業績をあげられました。

我が国的情報処理技術の萌芽期からその基礎理論分野の重要性に着目し、論理回路の信頼性向上に関する研究、確率論理、論理回路の最適設計、符号論理、オートマトンと形式言語論理、計算論などの研究で先駆的な業績をあげられました。特に、正規表現と有限オートマトンの研究は、我が国この分野の研究の先駆けとなり、確率オートマトンと線形空間オートマトン、セルオートマトン、決定性プッシュダウンオートマトンの

決定問題、ω正規表現の公理系などの研究を通じて、我が国的情報処理基礎理論分野の研究の発展に大きく貢献されました。

さらに、ソフトウェアの重要性の増大に伴い、プログラム理論、データグラフの理論、アルゴリズムの設計と解析、項書換え系、抽象データ型、ソフトウェアの代数的仕様記述に基づく検証と自動生成などの分野を開拓されるとともに、自然言語処理、不完全な知識に基づく推論、マルチモーダルインタフェース、モバイルコンピューティング等の分野でも先進的な数多くの研究を推進され、今日の情報処理技術の基礎学問体系の確立に貢献されました。

名古屋大学および三重大学においては、情報処理分野の優秀な人材を育成されるとともに、大学における情報処理技術の利用の促進にも努められ、名古屋大学の工学研究科長や大型計算機センター長などを歴任されて、教育研究環境の整備に貢献されました。また、情報処理の基礎理論分野の研究者の交流の場として、LAシンポジウムの立ち上げと運営に尽力され、数学・物理学・電気電子工学・情報工学など異なる背景を持った研究者の交流の場を提供し、若手研究者の育成と基礎理論分野の学際的研究環境の確立に多大な貢献をされました。

以上に加えて、本学会の理事および調査研究運営委員会委員長として学会の発展に尽力されました。さらに、電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会、人工知能学会など多くの学会の役員も歴任され、日本の情報処理の学術レベルの向上に大きく貢献されました。

このように、我が国的情報処理分野、とりわけ基礎理論分野の発展に尽くされた功績は誠に顕著であります。



堀 越 弥 君

ほり こし ひさし

(昭和15年3月25日生)

堀越彌君は、永年にわたって、計算機アーキテクチャの研究開発に携わってこられ、数々の優れた業績をあげられました。

すなわち、日立製作所において大規模にLSIを採用した国産大形汎用計算機M-200Hあるいは本格的な国産スーパーコンピュータS-810の開発に従事され、先進的でかつ高い信頼性を併せ持つコンピュータシステムとして完成させました。これらの計算機はオンラインシステムあるいは科学技術計算用途として広く利用され、このシステムの稼働により、日本の商用計算機が世界的に大きな評価をされるきっかけの一つとなりました。

さらに、学界、官界と連係し、今日の情報化時代を支えるプログラミング設計技術、コンピュータネットワーク技術についても、日本の先進的技術を世界に示すとともに、日本の情報処理技術の向上に大きく貢献されました。

また、東京大学における研究活動、計算機アーキテクチャに関する著作活動を通して、情報処理分野における多くの優れた人材の育成に多大な貢献をされました。

以上に加えて、本学会の副会長として学会の発展に寄与するとともに、国の審議会・委員会を多数歴任し、大きな成果をあげられました。

このように、我が国的情報処理分野の発展に尽くされた功績は誠に顕著であります。



松 下 温 君

まつ した ゆたか

(昭和14年2月4日生)

松下温君は、永年にわたってコンピュータネットワーク、分散処理、グループウェア、ヒューマンインタフェースの研究開発に携わってこられ、数々の優れた業績をあげられました。

すなわち、我が国において黎明期にあった分散システムの研究開発に着手し、国内では、先進的なミニコンピュータによるローカルエリアネットワークの開発や、コンピュータネットワークプロトコルの研究開発をされ、今日のネットワーク時代の基盤技術確立に大きく貢献されました。

1989年より、慶應義塾大学理工学部計測工学科教授（現情報工学科）として情報処理の分野で多くの優秀な人材を育成されてきました。特に、本学会においても、マルチメディア通信と分散処理研究会の主査を永年務められたとともに、グループウェア研究会、高度道路交通システム研究会を立ち上げ、初代主査として、国内外における研究コミュニティの発展に大きく貢献されました。また、国外の学会の数多くの国際会議の委員長を歴任され、日本の研究者たちと国外の研究者たちとの国際交流を促進するとともに、日本の先端的な情報処理技術を世界に示す機会を広げられました。

以上に加えて、本学会の副会長、理事を歴任され、本学会の発展に尽力されるとともに、官民の審議会・委員会委員を多数歴任され、我が国的情報処理分野の発展に尽くされた功績は誠に顕著なものがあります。